

2024年4月15日 特別講演会開催

環境負荷低減を目指した住宅のあり方



東京大学
大学院 新領域創成科学研究科
社会文化環境学専攻 教授

せいけ つよし
清家 剛氏 特別講演

1964年徳島県生まれ。東京大学工学部建築学科卒、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。
東京大学工学部建築学科助手を経て1999年より現職。博士(工学)。一級建築士。
専門は建築生産、建築構法計画。
公共建築協会「監理指針改定委員会 建具・カーテンウォール分科会」主査、
日本建築学会「JASS17 ガラス工事 改定委員会」委員など、外装に関連する委員を数多く務める。

<著書>

「図解事典 建築のしくみ」彰国社(共著)、「東京の環境を考える」(朝倉書店)(共著)、
「サステイナブルハウジング」東洋経済新報社(監修)、「ファサードをつくる」彰国社(共著)他。

2024年4月15日、東京大学大学院 清家剛教授による特別講演「環境負荷低減を目指した住宅のあり方」を開催して頂きました。

この講演は、弊社東京支店の澤井俊之氏が清家教授のセミナーを受講したことがきっかけで実現しました。清家剛教授はヤマト住建のLCCM住宅普及への取り組みを高く評価されており、今回の特別講演会の実現に繋がりました。

<右上> 清家剛教授 <左上> 弊社 会長
<下> 弊社 澤井氏



セミナーレポート

特別講演会では、高断熱住宅の脱炭素化と環境配慮について多くの学びがありました。住宅のライフサイクル全体でのCO2排出削減の重要性が強調され、特に運用時のエネルギー消費とCO2排出削減が大切だということがよく分かりました。CASBEE評価システムを使って住宅の環境効率を評価し、省エネ住宅の具体的な設計や施工、運用方法についても詳しく知ることができました。また、建設段階でのエンボディカーボン削減対策や太陽光発電の利用によるCO2削減効果についても深く理解できました。

具体的な省エネの方針として、高気密・高断熱、高効率機器の採用、自然エネルギーの活用が挙げられます。さらに、住宅の長寿命化や正しいエネルギー使用方法の重要性も再確認しました。これらの方針を実践することで、住宅の環境負荷を大幅に減らすことができると実感しました。

今回の講演で得た知識は非常に貴重で、今後の取り組みに大いに参考にさせていただきたいと感じています。エネルギー消費の削減だけでなく、建設から運用までの全体的な環境負荷低減策について具体的なアプローチが示されたことが印象に残りました。今後もこの貴重な学びを実践に生かし、環境に優しい住宅の普及に向けて努力を続けていきます。この貴重な学びを今後の実践に生かし、環境負荷低減のための努力を続けていきます。特別講演会で得た知識を活用し、持続可能な住まいづくりを推進し、地球環境の保護に貢献していきたいと思います。今後もさらに知識を深め、実践に努め、環境に優しい住宅の普及に向けて頑張っていきます。

▼特別講演会の様子



▲講演のレジュメ (一部)